



光桂寺だより

第210号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

御正忌報恩講ご案内

今年も残り少なくなつて参りました。皆様には何かとお忙しい毎日をお過しのことと思います。

振り返りますと新天皇の即位があり、年号が変わりましたが、新鮮味が皆さん感じられるでしょうか。まだしつくりいかないうであります。また消費税の増額、諸々の負担金の増額と、決して豊かになつたとは実感できない状況が続いているように思います。

さて今年も災害の多い年でした。稲作はあまり芳しくなかつたようですが、幸いに私どもの地域は、さしたる災害に見舞われることなく終わろうとしています。被災された地域の皆さんは、これから寒さに向い、また越年ということもあり、大変な思いをされていることでしょう。心からお見舞いを申し上げるとともに、出来る限りの支援をしていきたいものです。

一方マスクミを通じて、私たちの身の回りでは、来年のオリンピックについて、盛んに盛り上げようと思える声が響いています。暑さ対策意外にも、思わぬ問題が起こりはしないかと、その方が気になります。

世界の動きも眼を離せないことも数多いことです。自国主義や極端な政権の変動など、ここ数年続いています。世界の動きに大いに関係することにならないか、心配する必要があるように思えます。

さて真宗の開祖、親鸞聖人のご命日の法要を、「正忌」または「報恩講」と言います。真宗(浄土真宗)では一年間の中で、最も大切にする法要であります。

親鸞聖人のご命日については、真宗大谷派では、十一月二十八日となっております。京都の東本願寺では、十一月二十一日から二十八日まで、報恩講が勤まります。親鸞聖人をはじめ、念仏の教えに生きられた先達(念仏の道を先に歩まれた、あとに続く人々)に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる法要が「報恩講」であります。

当光桂寺では、毎年十二月十七、十八日の両日報恩講を勤めております。今年最後の法要であります。どうかお誘い合わせのうえ、ご参詣くださるようご案内いたします。

報恩講法要次第

期日 十二月十七日(火)・十八日(水)

○おとぎ 正午

○おつとめ 十三時

○法話 十四時

講師 徳常寺様

※お世話前 十七日 末次

十八日 八坂、馬渡

よろしくお願いいたします。



講師紹介

塚本 慈頭 師

みやき町 浄土真宗本願寺派 徳常寺前任職

おぼん(初おぼん) 法要次第

○十二月十七日(火)

十八時 お勤め

十八時三十分 お話と茶話会

十九時 お開き

「初おぼん(初めて迎える報恩講)」は、初盆と同じように考えていただきますと分りやすいのですが、昨年の十二月から今年の十二月までの間に亡くなられた方のお宅で「報恩講(報恩感謝の法要)」として執り行なうものであります。

今年も「初おぼん(初めて迎える報恩講)」を、昨年同様「おぼん」と合わせて執り行う事としました。

「初おぼん」に該当なさるお宅に呼び掛けて、十二月十七日に光桂寺にお出でいただき「初おぼん」をご一緒に勤めます。これによりこれまで「初おぼん」として各お宅にお参りしていた地域の方は、自宅ではなく本堂での「初おぼん」となります。先に申しましたとおり、これまでご案内をしていた「おぼん」の法要と合わせて行う事となります。

「初おぼん」として光桂寺にお出でいただく方の人数は問いません。該当の方のご一家以外も、亡くなられた方のご縁の方をお誘い合わせで参詣くだされば幸いです。

なお、勝手ながらのお願いですが、十七日「初おぼん」にお参りいただくときに、少量で結構ですので、お供えのお茶菓子をご持参いただきますようお願いいたします。

永代経志(ご)寄付者(ご)芳名

誠にありがとうございました。

本山納金のご依頼をいたします

毎年お願いいたしておりますご本山納金、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

総代さん、世話人さんを通してか、振込みや書留、現金によりお納めください。

○今年度の本山納金の負担額 七千円

謹んでおくやみ申し上げます



二〇二〇年度の年忌法要

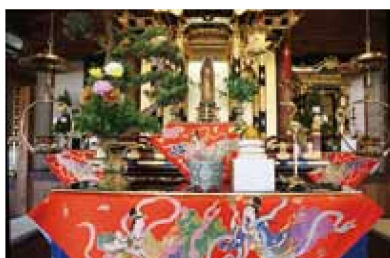
該当する年は、次のようになっております。くわしくは、お正月本堂に掲示します「年回表」をご覧ください。

一周忌	二〇一九年(平成三十一年)	没
三回忌	二〇一八年(平成三十年)	没
七回忌	二〇一四年(平成二十六年)	没
十三回忌	二〇〇八年(平成二十年)	没
十七回忌	二〇〇四年(平成十六年)	没
二十五回忌	一九九六年(平成八年)	没
三十三回忌	一九八八年(昭和六十三年)	没
五十回忌	一九七一年(昭和四十六年)	没
百回忌	一九二二年(大正十年)	没

ご法事を、土曜日・日曜日にされるようでしたら、早めにお知らせください。

お正月のお内佛(仏壇)のおかざり

- ・金属の仏具は金属磨きで磨きましよう
- ・打敷きを掛けましよう
- ・花は、松を真にして花を添えましよう
- ・お餅を、お鏡にして供えましよう



(例) 本堂のおかざり

建設検討小委員会が始まりました

総代会、門徒会総会に提案する、庫裏建て替え案を検討するため、門徒会館建設検討小委員会の初会合が、九月十四日に開かれ、顔合わせと今後の進め方の話し合いがおこなわれた。十月十九日に第二回目の検討会が開かれ、会館に必要な備品と設備、厨房の設備などが話し合われた。

十一月十七日に予定されている第三回目の会合では、平面図の検討をしていくこととなっている。

掲示伝道

一日の空過はやがて一生の空過となる

人生は一回限りのものであって、二度とくり返すことはできない。五十年・六十年の生涯のなかで、今日という日は一回しかない。

一日を大切にすることは、一年間を大切にすることである。一年を大切にすることは、一生を大切にすることである。一年を大切にすることである。一日を大切に生きることは、必ずしも、あれやこれやを精力的にこなしていくことではない。今日しなくてはならない唯一無二の事を見極め、そのことを行つて、後悔がなく、充実感が味あわれることである。

怠惰は人の骨を抜く。多忙は人の心を失う。空過は人の尊い生命を限りなく奪いつづける。それは大切な「時」を殺すことである。

本多 恵著「いのちのことは」より

〈メモ〉

空過 空しく過ごすこと

唯一無二 ほかにはない一つ
多忙 忙という字は、偏はりつしん偏で心を表し、つくりは亡くすと書く。心を亡くすことを表している



感動をもう一度と 名古屋へ行く

この度は、光桂寺での活動の一つである上山者の会のことを皆さんにお伝えします。上山者の会は、京都東本願寺へ奉仕上山をされた方々が、その後も折にふれ集まつたりしながら、思い出を語り合うなど、その絆を固めてきました。親鸞聖人七五〇回のご遠忌への参拝がきっかけで、その後には上山者の会として歩みだした「つどい」です。これまでに、鹿児島かくれ念仏の里、中津、行橋、八女、四日市別院等々を訪れる「研修・親睦の旅」をしながら、益々「絆」は深まっています。

この度は、皆さんの熱意が固まり、名古屋への旅が思い立られました。そのきっかけは、二〇一四年、今から五年前に上山した時の教導の先生「犬飼先生」との出会いでした。大変印象深い感動を覚えた先生との三日間の奉仕上山研修は、それから深く皆の心に残り、先生にもう一度会いたいとの気持ち次第に盛り上がり、「名古屋」への旅が、先生の快諾をもって実現したのです。

先生のお寺は、街中の小路の先にあり、こじんまりとした静かな佇まいで、私たちを迎えてくれました。先生の歓迎ぶりから、私たちを待つてくださった先生に、またまた感動しました。

今回も色々お話をしてくださったのですが、ご自分の体験を通してのお話でしたし、また上山での学習と同じく、一人ひとりにしつかり耳を傾けながらの対応して下さるお姿は、大変ありがたく益々引かれる思いでした。大満足のひと時を過しました。

その後、一向一揆にまつわる愛知県の、三河安城の寺めぐりをし、名古屋地方の真宗関係のお寺さんの多さにも驚きながら、実の有る「研修と親睦」の旅を無事終わることが出来ました。



(文責 坊守)

上山奉仕団の流れ

この度、11月2日から2泊3日、総代さんを中心に8名の方々が奉仕上山をされました。今回は写真でもって、奉仕上山の様子を紹介いたします。

1日目



到着(同朋会館)



結成式



両堂参拝(阿弥陀堂、御影堂)



夕事勤行(奉仕団紹介)



講義座談

2日目



帰敬式



記念撮影



清掃奉仕



諸殿拝観



夕事勤行(感話)



夕事勤行(感話)

3日目



解散式